

摂食障害支援拠点病院の業務について

■相談業務の目的と役割

東京都摂食障害支援拠点病院では、東京都摂食障害相談窓口を設置しております。摂食障害に関する相談に対し、患者さんの早期発見と受診につなげることを目指して活動を開始しました。看護師・精神保健福祉士・公認心理師から構成される摂食障害支援コーディネーターを配置し、ご相談を承ります。

専門性の高い治療を受けられる施設は限られています。また我々も各地域の医療機関の実情や情報を十分把握することが、残念ながら出来ていません。そのような中でも、患者さんの現在の状況を把握し、適切な医療機関への受診に向けた相談がこの窓口の重要な役割となっています。

相談前に準備していただきたいこと

相談をスムーズに進めるため、以下の内容をコーディネーターがお伺いします。

- 相談者／ご本人、母、父、その他の家族、友人、医療従事者、学校関係者、福祉関係者
- お住まいの都道府県、市区町村
- 患者さんの年齢・性別
- 身長・体重
- 学年・職業
- 特にお困りの症状
- 医療機関に通院中かどうか

医療・保健・福祉・学校関係者の方へ

東京都摂食障害支援拠点病院は、摂食障害の治療と支援に携わる皆様をサポートいたします。

- 摂食障害患者さんの診療で対応に苦慮している医療従事者
- 学校で摂食障害の可能性のある生徒さんに接する養護教諭
- 摂食障害患者さん、ご家族から相談を受けた保健師、福祉担当者

ご自身や身近な方が
「極端な食事制限」や「むちゃ食い(過食)」、
体重増加を防ぐための
代償行動(嘔吐や下剤乱用など)を
繰り返していませんか？
専門家にご相談ください。

[東京都摂食障害相談窓口]
東京都在住・在勤の方が対象

TEL 050-5536-6200

※東京都摂食障害相談窓口では松沢病院の受診予約を受け付けることはできません

相談受付時間：月曜日、火曜日、金曜日(祝日、年末年始を除く)

※臨時でお休みをいただく場合があります。

○9時30分～11時30分 ○13時00分～15時30分

なお、摂食障害支援拠点病院は直接治療を行う場所ではありません。受診希望の方には、お住まいの地域や症状をお伺いして、適切と思われる医療機関をご案内しております。

東京都摂食障害支援拠点病院

地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立松沢病院

〒156-0057 東京都世田谷区上北沢2-1-1

<https://www.tmhp.jp/matsuzawa/>



摂食障害情報ポータルサイト(一般向け)
https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_general



摂食障害全国支援センター
<https://edcenter.ncnp.go.jp>



食べること、
やりたいことを楽しめていますか？
↓
ダイエット・食欲不振・食べ過ぎで悩んでいるあなたへ↓



摂食障害のサイン

体重

- 急激に体重が減少する
- 体重が増えることを極端に怖がる
- 「太っている」という言動が多い
- 1日に何回も体重計に乗る

食事

- 食べる量が減る
- カロリーの低い食品を中心に食べ、炭水化物など特定の食べ物を拒否する
- 食べていないのに「食べている」「お腹が空いていない」と言う
- 人と食事をするのを避ける
- 食べだすと止まらない
- 食費がとてめにかかる

やせるための代償行為

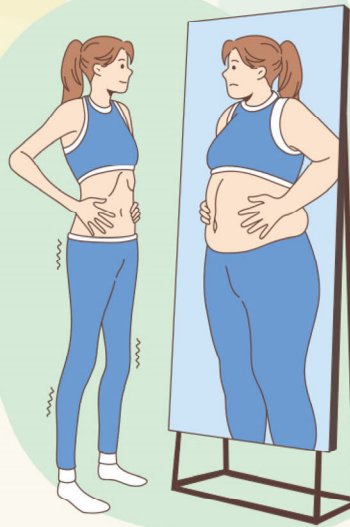
- 食事後にしょっちゅうトイレに行く
- トイレや風呂で嘔吐物の臭いがする
- 頬や顎あたりが不自然にはれている
- 手の甲に「たこ」ができています
- 行き過ぎた運動メニューを実践する
- 常に動き続けている 立っていることが多い

摂食障害ってなに？

摂食障害とは、食事に関する行動が原因で、生活のさまざまな面に問題が現れる病気の総称です。極端な食事によるからだの症状だけでなく、不安や悲しみ、苦しみなどのこころの症状も見られるため、こころとからだの両方に対する治療と支援が必要になります。摂食障害には、神経性やせ症、神経性過食症のほか、過食性障害や回避・制限性食物摂取症といった病気も含まれます。

神経性やせ症

神経性やせ症は、やせることでしか自信や達成感を得られなくなる病気です。体重が増えることへの怖さから、食事制限や嘔吐、下剤や利尿剤の乱用、激しい運動などによって体重を減らし、日常生活が困難になってもやせ続けようとします。適切な食事を摂取することでからだに栄養を取り入れながら、不安や怖さといったこころの症状についても治療や支援をしていくことで回復を目指します。



神経性過食症

神経性過食症は、いやな気持ちを抱えきれずに、一気に過食しては代償行動を繰り返す病気です。代償行動とは、嘔吐や下剤・利尿剤乱用、激しい運動などの行動で、体重増加への怖さや、過食に対する辛さや後ろめたさなどのこころの症状と結びついています。また、過食に時間やお金を費やすため、生活面にも影響があります。症状を記録しながら、三食きちんと取り、生活習慣を整えていくことが大切です。



過食性障害

過食性障害は、自分ではコントロールできない過食(むちゃ食い)を繰り返すことが特徴です。ただ、過食による体重増加を防ぐための代償行動を伴わない点が神経性過食症と違うところです。代償行動がないため、体重が増えやすく、肥満が多く見られます。



回避・制限性食物摂取症

回避・制限性食物摂取症は、食物の回避または制限によって体重減少や栄養欠乏を引き起こします。神経性やせ症とは異なり、体重へのこだわりはありません。食事への関心のなさ、においや味、食感への敏感さ、吐いてしまうことへの怖さが関係します。

